

令和7年度構造設計一級建築士講習

考査会場	受講番号	氏名
	—	

修了考査（法適合確認）

答 案 用 紙

次の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

〔注意事項〕

1. この答案用紙の枚数は、表紙を含めて6枚あります。
2. 解答は、それぞれの設問ごとに所定の方法で記入して下さい。
3. 問題は、選択理由記述式4肢択一問題(以下、4肢択一式という)が10問、記述式が3問あります。
科目合格の判定においては、4肢択一式10問の評価の合計が一定以上であること、記述式3問について問題ごとの評価が一定以上であること、かつ、4肢択一式及び記述式の評価の合計が一定以上であることが求められます。
4. 下書き、計算等はメモ欄や余白部等を使用して下さい。
5. この答案用紙は、持ち帰りを禁止します。

法適合確認（選択理由記述式 4肢択一問題）

[No.1]

いずれかを○で囲む	不適当とする理由	(この欄は記入しない)
1 · 2 · 3 · 4		

[No.2]

いずれかを○で囲む	不適当とする理由	(この欄は記入しない)
1 · 2 · 3 · 4		

[No.3]

いずれかを○で囲む	不適当とする理由	(この欄は記入しない)
1 · 2 · 3 · 4		

[No.4]

いずれかを○で囲む	不適当とする理由	(この欄は記入しない)
1 · 2 · 3 · 4		

[No.5]

いずれかを○で囲む	不適当とする理由	(この欄は記入しない)
1 · 2 · 3 · 4		

採点欄

--	--

(受講者は記入しないこと)

〔No.6〕

(この欄は記入しない)

いずれかを○で囲む	不適当とする理由
1 · 2 · 3 · 4	

〔No.7〕

(この欄は記入しない)

いずれかを○で囲む	不適当とする理由
1 · 2 · 3 · 4	

〔No.8〕

(この欄は記入しない)

いずれかを○で囲む	不適当とする理由
1 · 2 · 3 · 4	

〔No.9〕

(この欄は記入しない)

いずれかを○で囲む	不適当とする理由
1 · 2 · 3 · 4	

〔No.10〕

(この欄は記入しない)

いずれかを○で囲む	不適当とする理由
1 · 2 · 3 · 4	

法適合確認（記述式）

（この欄は記入しない）

問題 1

--	--

① 7階の保有水平耐力 $Q_{u7} =$ Q_{u1}

② 1階に生じる水平力 $Q_{ud1} =$ a

（計算欄）

③ イ柱 FA・FB・FC・FD (いずれかを○で囲む)

ハ柱 FA・FB・FC・FD (いずれかを○で囲む)

④ 塑性ヒンジ発生後における柱のせん断力の最大値 $\max Q_M =$ Q_{ME}

（計算欄）

採点欄

--	--

（受講者は記入しないこと）

⑤ 曲げ破壊型に求められるせん断耐力 Q_c の最小値 = Q_M

⑥ 1階柱の部材群の種別 (いずれかを○で囲む)
A・B・C・D

(判定理由を簡潔に記述)

⑦ 1階の構造特性係数 D_{s1} =

(判定理由を簡潔に記述)

⑧ 耐力低下が最も危惧される柱 (いずれかを○で囲む)
イ柱・ロ柱・ハ柱

(耐力低下を防止する対策として有効と考えられる方法を簡潔に記述)

問題 2

(この欄は記入しない)

[No.1]

--	--

① 検討不足事項

1.

2.

3.

② 追加すべき検討事項

--

採点欄

--	--

(受講者は記入しないこと)

(この欄は記入しない)
[No.2]

--	--

① 下弦材端部のせん断面の周長 $L_e =$

 (mm)

② 下弦材端部のせん断面積 $A_s =$

 (mm²)

③ 下弦材端部の長期許容せん断耐力 $T_1 =$

 (kN)

④ ほぞ胴付き面長期支圧耐力 $T_2 =$

 (kN)

⑤ 下弦材端部長期引張り耐力 $T_3 =$

 (kN)

⑥ 合掌尻の長期許容耐力 $T =$

 (kN)

問題 3

(この欄は記入しない)

[No.1]

--	--

① 2階床レベルのX1通り接合部の柱梁耐力比 =

--

2階床レベルのX2通り接合部の柱梁耐力比 =

--

2階床レベルの階としての柱梁耐力比 =

--

② 本建築物の予想される崩壊形は、部分崩壊形である。全体崩壊形である。

(いずれかを○で囲む)

(計算欄)

--

採点欄

--	--

(受講者は記入しないこと)

(この欄は記入しない)
[No.2]

--	--

1階 柱及び梁の部材群としての種別

A・B・C・D

 (いずれかを○で囲む)

構造特性係数 $D_{s1} =$

--

2階 柱及び梁の部材群としての種別

A・B・C・D

 (いずれかを○で囲む)

構造特性係数 $D_{s2} =$

--

(計算欄)

(この欄は記入しない)
[No.3]

--	--

段階	安定した塑性変形能力を確保するための留意点及び対策(採用する工法や材料選定等)
構造設計	
鉄骨製作	

— 以下の余白はメモ等に使用して下さい —